ふるさと昭和　～歴史を訪ねて～　第99回

感染症への不安から

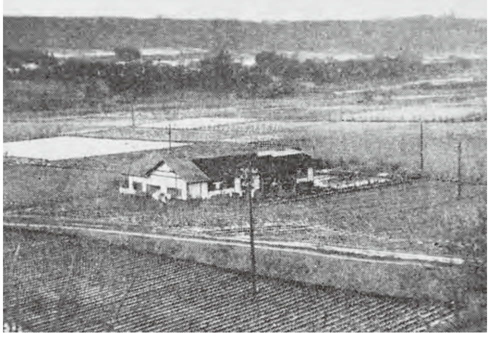
昭和村ボランティアガイドの会
理事　堤　義樹

新型コロナウイルスと呼ばれる新しい感染症が、日本をはじめ全世界で猛威をふるっている。このウイルスが生活、経済、教育に及ぼした影響は甚大である。

このような、人類と感染症の歴史は古く、中世ヨーロッパでの「ペスト」の流行や、百年ほど前の「スペイン風邪」の流行は有名である。最近は「ポリオ」や「結核」の感染は聞かなくなったが、新しい感染症として「エボラ出血熱」や「SARS（サーズ）」などがある。今回の新型コロナウイルス感染症は、今までにない感染力で、多くの人に不安を与えている。

糸之瀬、久呂保の両村誌には、明治、昭和期の感染症に関する記録が残されている。当時は医学が発達していないため「コレラ」や「赤痢」が発症すると、感染者との接触を避けるための方策がとられた。明治二十九年頃から、そのための施設として「伝染病隔離病舎」が造られた。

村誌には「明治十五年、勢多郡でコレラが発症したため、椽久保、森下村が協議し、他村の者を村に入れないようにし見張りを付けた」と書かれている。また「明治三十一年、赤痢が蔓延し、患者は八十余人、貝野瀬村では患者が多く隔離病舎だけでは間にあわず、寺などに収容して予防に努めた」とある。他にも「久呂保村で明治二十九年赤痢患者二十五人発症、腸チフス四人」という記述もある。


森下にあった隔離病舎

村誌には、村民の健康を守るために医師の常駐できる診療所を設立した様子や、村民の医療費負担を軽減するために、国民健康保険制度を整備していく様子も記録されている。当時の、感染症への不安が、村の医療環境を発展させていった。

村誌からは、先人の地域医療のための苦労が感じられる。

参考　糸之瀬村誌、村誌久呂保

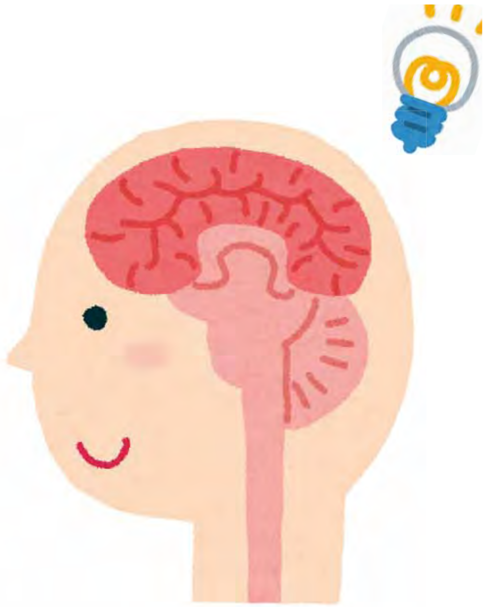
地域包括支援センターだより

脳の健康を保ちましょう！

脳は、使わないとどんどん怠け者になってしまいます。ここでちょっと刺激してみませんか。認知症サポーター養成講座を受講した昭和中１年生の皆さんが、脳トレの問題を考えてくれたので、いくつか紹介します。みんなで楽しく脳を鍛えましょう！

【問題】バラバラの文字を並び替えて、ひとつの単語にしてください。

①らうしょむわ
②ルッパプナイ
③ウッュコウガチ



認知症の相談窓口
昭和村地域包括支援センター（昭和村役場内）
☎0278-24-5111（内線134・135）

＊群馬県認知症疾患医療センター内田病院
沼田市久屋原町345－1　☎0278-24-5359
「もの忘れが気になる･･･、診察してほしい」。そんな時には、まず、かかりつけ医に相談しましょう。状況によっては、認知症に関する鑑別診断や専門医療相談を行う『認知症疾患医療センター』と連携します。

【問題の答え】
①しょうわむら
②パイナップル
③チュウガッコウ

問合せ　地域包括支援センター　☎24-5111（内線134・135）